



中山 貴氏

博士(工学)、一級建築士。1972年より鹿島建設㈱にて勤務し、主に石材関連の研究開発に従事。建築技術研究部長、先端技術研究部長、副所長を務め、現在は専任役。近著は20年ぶりに増補改訂された『新版 石と建築』(鹿島出版会発行)。

いては議論も分かれるところでしょうが、水の浸入を押しさえないと石はだんだん汚れてきます。もう一つの観点は、地面から吸い上げていく水もあります。地面から吸い上げていく水の中にはいろいろな成分が含まれています。可溶性の塩類などを吸い上げると黒ずんだり白華を起こしたりする。

そういったこともあるので、いかにして地盤と石を切り離すか。墓石の場合、雨がかからないように屋根を作るわけにもいかないでしょ。水対策として地盤と石を切り離すような対策をとることによって、持ちも変わってくると思います。

**服部** 中山さんがおっしゃったことは非常に的を得ていると思います。下から上がってくる水は、いろいろな跳ね返りもあると思いますが、下部で起ることと上部で起ることは違っていません。設置場所の向きも関係しますね。南側なのか北側なのか。樹木があるのかないのか。土も、土だけの成分だけでなく、そこには微生物もいっぱいいるわけです。こういった複合的な要素が、いまって石の変質に繋がっていくのです。

以前、地震による被害で鳥居の倒壊事例を見たことがあるのですが、この鳥居の破片を見てみると、ものすごく綺麗なんです。鳥居と言えは、数メートルや10メートル以上の高い所にある石で

**中山** まずは石の選択が第一ですが、水が行き来をどのようにして防止するか。最近はいろいろな薬品も出ていますよね。例えば吸水防止剤。これを塗るか塗らないかにつ